

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		景観形成推進事業		担当課 都市計画課
総合計画	政策	快適に暮らせるまち		計画期間 平成18年度～
	施策	緑を生かした景観の形成		種別 法定＋任意
	基本事業	美しい都市景観の形成		市民協働 事業協力
予算科目コード		01-080401-05 単独	根拠法令・条例等	景観法，守谷市景観法の施行等に関する条例

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成16年に国において景観法が定められ，まちづくりにおいては，恵まれた豊かな水辺や緑を保全するとともに，良好な景観を創出していくことが大切であるため，市は平成17年8月24日に「景観行政団体」となった。 また，無秩序な市街化を抑制し，都市の健全な発展と計画的なまちづくりを進め，良好な都市景観の形成を図るため，平成19年4月1日に「守谷市景観計画」，「守谷市景観法の施行等に関する条例」を定め	「守谷市景観計画」に基づき，建築物を主体とした良好な景観形成の推進，快適な都市環境の創出を図るため，景観計画に示す基準による助言，指導，条例に基づく届出の受付，「守谷市景観審議会」の運営を行う。 市内に存在する多数の屋外広告物の管理を屋外広告物等管理システムにより行い，市内に無秩序に掲出された違反広告物に対して「守谷市屋外広告物条例」及び「守谷市違反広告物是正指導要綱」に基づき計画的に是正指導を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民共有の財産である良好な都市景観を守り，次世代に引継ぐために「守谷市景観計画」に即した景観まちづくりを，市民の理解のもと進めていく。 あわせて，屋外広告物の氾濫が景観形成を阻害している一つの要因であることから，「守谷市屋外広告物条例」に基づき屋外広告物を適正に管理することにより，街並みの良好な環境の保持に努める。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民の景観意識を高め，美しい街並みを創出する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
条例違反広告物に対して是正指導を行っているが，特に屋外広告物の掲示者（店舗等の責任者）が屋外広告物条例の認知度が低く，違反行為と認識していない場合が多い。	R2.6～10月：是正対象調査（大木，板戸井，野木崎，北守谷板戸井線，谷井田稲戸井・停車場線～郷州戸頭線） R2.6～10月：是正通知発送
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
・ 是正対象物件の調査後，通知により是正の周知と指導を行う。 ・ 広報やホームページ等を利用し条例内容をわかり易く周知する。 ・ 是正対象の土地所有者にも周知する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	景観は市民共通の財産であり，今後も継続する必要がある。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
良好な景観の維持の為、屋外広告物是正指導を78件に対し是正指導を行った。その内25件については対応済み（申請許可12件、撤去済5件、申請不要8件）で、53件が是正に向けた対応中である。	引き続き屋外広告物是正指導を行い、令和元年度は緑地区、大木地区及び板戸井地区に是正指導を67件行い、その内36件については対応済（申請許可済5件、撤去済10件、申請不要21件）であり、その他の31件については、是正指導中である。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
是正指導に基づく許可件数（件）	2.00	12.00	5.00	2.00	2.00
是正指導に基づく違反広告物削減件数（件）	6.00	5.00	10.00	5.00	5.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	是正指導の効果により、違反広告物が減少している。一方、当該年度の是正指導区域外では、新たな是正指導対象物件がでてきている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	良好な都市景観維持の為、引き続き違反広告物の是正指導を行うとともに、景観に影響を与える建築物等に対し指導等を行う。			

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	2,780	2,785	3,149	2,624	2,624
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	1,177	1,454	1,289	1,297	1,297
	一般財源	1,603	1,331	1,860	1,327	1,327
正職員人工数（時間数）		1,410.00	681.00	1,304.00	0.00	0.00
正職員人件費		5,781	2,843	5,350	0	0
トータルコスト		8,561	5,628	8,499	2,624	2,624

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		「野鳥の森散策路と鳥のみち」協働推進プロジェクト		担当課
総合計画	政策	快適に暮らせるまち		計画期間
	施策	緑を生かした景観の形成		種別
	基本事業	美しい都市景観の形成		市民協働
予算科目コード		01-020107-20 補助	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、自然・緑と共生した環境を維持し、市内外の方が憩う場として拡充・活用を進め、市の魅力の向上、地域活性化に向けた事業を開始した。	市民ボランティア団体（守谷市観光協会）が作り上げてきた地域資源を活用して、将来の地方への永続的な人の流れを創出し、持続的な経済効果をもたらす環境を整える。行政、企業、市民等の協働作業により、鳥のみち（木道）の安全性、快適性を向上させて、つくばエクスプレス等の民間企業と連携した自然体験ツアーを開催する等、守谷の魅力を広域的に発信していく。 平成31年度は、パンフレットやHPを活用したPR事業、木道の環境整備・維持管理、自然体験ツアーや市民等の自然観察会等を実施するための費用として負担金を計上する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
地域資源「守谷野鳥のみち（旧守谷野鳥の森散策路と鳥のみち）」を活用して、将来の地方への永続的な人の流れ（交流人口から移住促進へ）を創出する。持続的な経済効果をもたらす環境を整備することで、魅力ある付加価値を創出し、“住まう”場としての魅力を高める。本市と同様に東京圏との近接性を持つ市区町村と差別化してU・I・Jターンを促進し、総合戦略に掲げる基本方針「『住まう』まち（住み続けることができるまち）・守谷」を実現することができる	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民の景観意識を高め、美しい街並みを創出する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
・平成30年12月に木道の全線更新が完了し利用環境が整備されたため、野鳥のみちの周知とともに利用者は増えつつあるが、更に多くの方を訪れてもらうための取組が必要である。	【～令和元年11月】 ・グリーンインフラ事業と連携しスタンプラリーを開催（東口市有地マルシェ）。 ・野鳥のみちをルートに盛り込みウォーキングツアーを実施（関東鉄道（株）主催）。 ・木道の機能維持のため、首都圏新都市鉄道（株）との協働作業（防腐塗装）を実施。 ・小学生の環境学習の場として野鳥のみちを活用（守谷小学校4年生147人）。 【令和元年12月～】 ・野鳥のみちから守谷城址等の市内施設を絡めたウォーキングツアーを予定。 ・首都圏新都市鉄道（株）の協力によるTX中吊り広告により野鳥のみちのPRを行う。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
・首都圏新都市鉄道（株）の協力によるTX中吊り広告等の野鳥のみちPRを継続しつつ、整備予定の東口市有地の施設・オープンスペースやグリーンインフラ事業と連携した取組を図っていく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☒ 削減	・木道の利用環境整備が完了したため更新にかかる予算は削減の方向となる。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
平成30年12月に木道の全線更新が完了し、利用者は増えつつある。更に多くの方に訪れてもらうための取組が必要である。	市内外へ守谷野鳥のみちの周知と利用者を増やすことを目的に、首都圏新都市鉄道株式会社と連携を図り、電車内の中刷り広告や各駅構内へのポスター掲示などを行った。 自主開催の見学ツアーや民間企業と連携した野鳥の観察会などを継続的に実施した結果、市内さらに市外へと周知が広がった。さらに県外からの視察隊の受け入れも増え、茨城新聞と朝日新聞にも特集記事が掲載された。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
野鳥のみちの利用者数（人）	0.00	20,000.00	48,300.00	25,000.00	25,000.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	周知の効果が現れ、利用者数も増加している。市外や県外からの視察隊の受け入れも増え、茨城新聞，朝日新聞に特集記事が掲載された。さらに野鳥のみちに隣接する守谷城址公園の整備にも守谷野鳥のみち自然園のメンバー(市民ボランティアにて構成)が着手し、整備エリアを広げている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	「野鳥の森散策路と鳥のみち」協働推進プロジェクトの事業期間も令和元年度で終了となるが、引き続き、市民・企業・行政の協働により「守谷野鳥のみち」の周知を行い、より一層市内外から多くの利用者に訪れてもらえるような地域経済の活性化に資する事業を実施する。			

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	8,931	529	1,095	242	0
	国・県支出金	4,465	264	767	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	265	768	0	0
	一般財源	4,466	0	-440	242	0
正職員人工数（時間数）		272.00	313.00	112.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,115	1,307	460	0	0
トータルコスト		10,046	1,836	1,555	242	0